



エスコープ大阪機関紙

C o n t e n t s

表紙

・誰もがその人らしく、役割をもって参加できる地域づくり

P2

・地場野菜を食べて自分たちの食を守る!

P3

・活動報告 シャボン玉首長メッセージ
取得活動／第3回エスチャンネル／エ
ッコログループづくり
・組合員紹介 関西W.Co連合会と共に
つくる地域社会

P4

・新加入者フォロー
・理事会報告 ・Rびん回収率
・おたよりネット ・編集後記

第一次 生活クラブ
2030
行動宣言

生活クラブはSDGsの理念に通じ、
かつ留まらない活動を実行していくことを約束します。



誰もがその人らしく、 役割をもって参加できる 地域づくり

湯川さんが代表理事をされている「特定非営利活動法人 SEIN(サイン)」は、4年前の「泉北ニュータウン街びらき50周年イベント」をきっかけに、泉北ニュータウン(堺市南区)に拠点を移し、コミュニティの再創生を図ろうとさまざまな取り組みをすすめています。現在は、公社茶山台団地で、住人が集い、惣菜の販売と食事ができるスペース「やまわけキッチン」を運営されています。

(聞き手:常務理事 吉田 正美)

心の孤立を なんとかしたい

吉田 幼少時代を泉北ニュータウンで過ごされたそうですが、久しぶりに戻った泉北ニュータウンはどう映りましたか。

湯川 子どもの頃と比べると良くなったこともありますが、人の関係性が希薄になったと感じました。「やまわけキッチン」を始めた頃は、住人の方に気軽に声をかけていものか悩むこともありました。しかし、名前を覚えて声をかけると、「私の名前を知ってるの。うれしい!」という言葉が返ってきました。高齢の方の中には一日中誰ともしゃべらない生活を送っている人がいることもわかりました。惣菜販売と食事ができるスペースを作り、食べるものを提供することはできたので食の確保はなんとかなる。けれど、孤立という問題をどうしたら救えるかを考えました。

吉田 特にコロナ禍で人と会うことが減り、孤立を感じている方は多いでしょうね。今の地域の課題はどこにあると思いますか。

湯川 情報が分断されていることで、心の孤立を感じている人は多いですね。SNS(ソーシャル・ネットワーク)(グ・サービス)を利用できない人たちは情報が行き届いていません。またコロナ禍の中

特定非営利活動法人 SEIN
代表理事

湯川 まゆみさん

で出産した人が、「赤ちゃんに感染させたらどうしようと思つて外に出られず、同じ月齢の赤ちゃんに出会うことができない」と言っていました。周りにサポートするところはあるのだけれど、見えていない。やはり、情報が足りないんです。そういう人たちにどうやったら情報を届けることができるのか。

また、子どもたちも学校の行事が無くなったこともあり、ストレスを抱え、言葉づかいが悪くなったり、友だちに手をあげたりすることが増えていると聞きます。以前だったら、運動会で「○○ちゃんって足が速いね!」など、日常のちよつとした気づきを共有し、認め合うような機会があったけれど、今はそのような機会が減っています。これまで学校で担ってきたものを地域との連携で実現できないかと考えています。

原動力は自身の経験

吉田 湯川さんは地域の中の孤立をなくしたいと強く思われ、行動に移しています。が、その原動力となる思いや原点のようなものがあるのでしょうか。

湯川 学生時代に自分自身が孤立を経験したことが原点です。部活動でかなり追い込まれ、誰にも相談できず、孤独や孤立を抱えた苦しい時期がありました。でも今は地域の課題解決のことを考え、行動する

自分がいる。自分と同じしんどい思いをする人をなくしたい。今孤立して苦しんでいる人たちの気持ちがよくわかるし、そこを乗り越えれば大きな力を発揮できると信じています。当事者も地域の課題

解決の担い手として共に取り組んでいきたいと思っています。

一人ひとりが 持っている力を集めて 街づくり

吉田 エスコープ大阪では、地域の人々とながり、さまざまな課題を解決するために地域の拠点、プラットフォームづくりの実験取り組みをすすめることの方針を決定しました。SEINは今後どのような取り組みを考えていますか。

湯川 身近な地域の情報を発信していきたいです。超ローカルYouTubeみたいな。周りの人のことを知らないから関係性も希薄になってしまっています。だから、天気予報のように繰り返し情報発信し、まず知ってもらいたいと思います。気になる人の問題も、横のつながりができ、地域とながることで解決できるはずです。それから、「ながら見守り」を拡げていきたいです。例えば、散歩しながらついでに見守りをするような、日常生活の中で地域を見守る人が増えたらいいですね。

住人の皆さんにはいろんな人がいるので、その人たちが持っている力を借りて、豊かで楽しい街づくりをすすめたいと考えています。弱者を救済するための支援ではなく、一人ひとりが自立して、どんな形で暮らしていきたいのかを一緒に考えて、動いていきたいと思っています。

吉田 エスコープ大阪でも、誰もが役割をもって、お互いがたすけあえる社会をめざしていきたいと考えています。湯川さんたちのような地域の人たちと連携し、ぜひ実現していきたいと思っています。

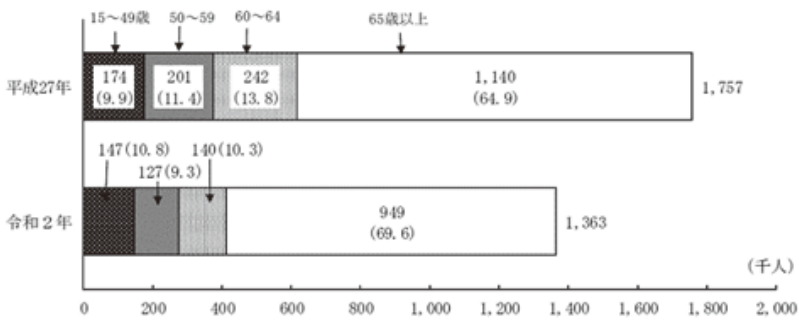
地場野菜を食べて 自分たちの食を守る！

エスコープ大阪には定期登録で食べる地場野菜「旬菜セット」があります。エスコープ大阪本部のある堺市を中心に、配達エリア内の生産者20名の生産者グループ「菜食ファーム」の野菜セットです。2018年度に決定したエスコープ大阪中期計画に沿って、週間平均利用2000セットをめざして取り組んでいます。6月の週間平均登録セット数は1571セットとなっています。

全国でも最低 野菜の大阪府自給率 の低さ

日本の食料自給率は、農林水産省が「食料・農業・農村白書」の中で、毎年発表しています。昭和40年には73%もあった食料自給率（カロリーベース）は、令和元年度は38%です。ここ数年続けて同じです。諸外国の

【図1】年齢別基幹的農業従事者数(個人経営体)の構成 (全国)



注：() 内の数値は、基幹的農業従事者に占める割合 (%) である。
出典：農林水産省 農林業センサス

止まらない 就農者の減少と 高齢化

2007年カロリーベースによる食糧自給率をみると、オーストラリアは173%、カナダ168%、アメリカ、フランスなどは100%を大きく上回っており、日本は主要先進国の中で最低水準になっています。そして、大阪府でみると食料自給率はなんと1%となっています。

食料自給率が好転しない理由としては、全国的に基幹的農業従事者の減少があります。農林水産省の農林業センサスによると平成12年に約389万人いた基幹的農業従事者は平成27年に約175万7000人、令和2年には136万3000人まで減少しています。またその年齢構成は基幹的農業従事者の減少に比べると緩やかではあるものの、高齢化がすすんでいます(【図1】参照)。

このことは菜食ファームの主な産地である堺市も同じ傾向で、堺市のホームページにある農水産業統計データによると昭和60年に4973人いた農業就業人口は平成27年には1471人まで減少しています。

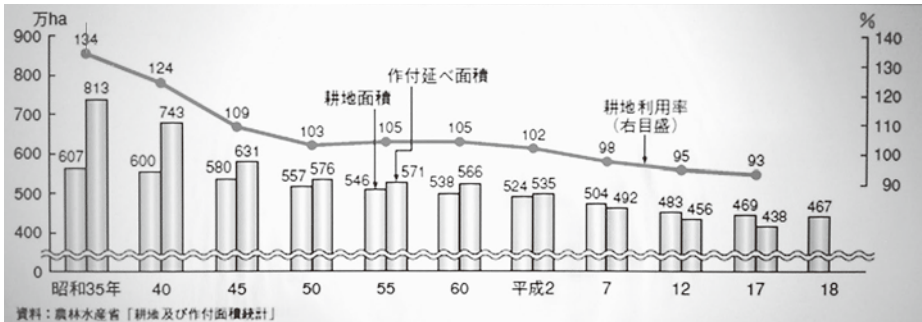
※基幹的農業従事者…自営農業に主として従事した世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者

増え続ける 耕作放棄地

就農者の減少に伴って、耕作放棄地が増えています。耕作放棄地とは農作物が1年以上作付けされず、農家が数年の内に作付けする予定がないと回答した田畑、果樹園のことです。全国的にみても耕作放棄地は増え続けています(【図2】参照)。

菜食ファームの畑がある堺市の東山区も宅地化が進み、畑が少なくなっています。それでもまだ畑を維持し生産している生産者は一度は、エスコープ大阪と関係をもっていった人たちが多く、生産者から聞いています。

【図2】耕地面積と耕地利用率の推移



資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計」

「旬菜セット」で 地場野菜を食べることは、 地元の農地を守ること

私たちの周りを見渡してみると農地はどんどんなくなり、宅地化が進んでいます。私たちは、私たちの畑で採れた野菜を「旬菜セット」登録者で分け合い食べることで、自給率を上げることや産地づくりをすすめています。そのために「旬菜セット」に入る野菜についての農薬の使用基準や価格、品目などを菜食ファームとの会議で話し合っており、お互いに持続可能な生産と消費をめざしています。

「旬菜セット」の内容の充実、生産量と生産者を増やすことにつながる取り組みとして2019年度より、地域委員会や旬菜セットに入れてほしい野菜に生産者とともにチャレンジしています。地域での実験後、いくつか全体化することができました。また、畑でとれたものを食べきる取り組みをすすめるために、ピークが重なりやすいトマトについては「旬菜セット」に登録する組合員だけでなく、登録していない組合員も参加できる仕組みをつくっています。

身近に地場野菜があるという環境、その地場野菜がなくなったらどうなるのでしょうか。地場野菜を食べ続けることは、私たちの住む地域の緑を守り、未来の環境を守ることにつながります。自分のため、未来のため、そして地域や地球全体のことを考えて身近に共に地場野菜に取り組む生産者がいます。「旬菜セット」に登録しておおぜいの食べる力で、自分たちの食を守っていきましょう。

旬菜セット規格

「私たちの農園」である菜食ファームの「旬菜セット」。すぐ近くで育った旬で新鮮なおいしい野菜です。

この地場野菜のセットは、生産者(菜食ファーム)と食べる約束をした定期予約の取り組みです。

栽培基準		
栽培期間中農薬不使用または大阪府エコ農産物基準の1/2以下の減農薬、有機質肥料で栽培しています。		
種類	ファミリーセット	ミニセット
品数	7～9品目くらい	3～5品目くらい
価格(税込)	1,728円程度 ※夏場は1,944円程度	1,080円程度 ※夏場は1,296円程度

環境委員会

シャボン玉首長
メッセージ取得活動

6月
エスコープ大阪エリア内

環境担当理事 山路 登葉

エスコープ大阪が毎年7月に取り組んでいる「シャボン玉月間」と



2020年度行政からの
メッセージ集

自治体と共に水環境を守る
活動に取り組む！

エスコープ大阪の配達エリア内にある21市町村のうち19市町からメッセージを取得できました。昨年同様、堺市と千早赤阪村からはメッセージを辞退するという残念な回答がありました。

それに向けた「首長メッセージ取得活動」は、せっけん運動ネットワークに加盟する漁協、農協、生協など全国50団体と共に、毎年すすめている活動です。「被害者にも、ましてや加害者にもなりたくない」を合言葉に、合成洗剤ではなくせっけんの利用を入り口に、水環境を守る視点から幅広く暮らしを見直す活動をしています。市町村に働きかけ、私たちのせっけん運動を応援する首長メッセージの寄稿と、公共施設への「シャボン玉月間」ポスターの掲示を依頼しています。今年も新型コロナウイルスの緊急事態宣言が発令されていたため、訪問ではなく昨年同様電話と郵送による依頼となりました。

今年度届いたメッセージには家庭から出る廃油を回収してハンドソープを作り、公共施設に設置している取り組みや、コロナ禍でもできる環境保全への取り組みを模索している自治体の報告がありました。

水環境を守る活動は組合員の活動に留まらず、行政の理解と協力を得ながらすすめていくことで、より現実的な取り組みになります。この取り組みを通じて組合員が、自分たちが暮らす自治体の水環境保全に関してどのような施策を持っているかをまずは知る機会にしたいと思っています。そのうえで改善の余地があれば、行政への働きかけに発展させられるようにしていきたいと思っています。

泉北ニュータウン地域

エココグループ
づくり

6月29日(火)
オンライン開催

泉北ニュータウン地域理事
前田 美佐代

誰もが安心して、自分らしく
暮らせるまちづくりを

エスコープ大阪のエッコロ制度は今年で6年目になります。加入者数は1223名(2021年3月20日現在)で、うち253名が泉北ニュータウン地域(南区)組合員です。

参加者同士でエココグループをつくろうという今回の企画の開催に向け、3月から地域のエッコロ加入者

が安心して、自分らしく暮らせるまちづくりの実現のためには、気軽に地域にたくさんつくっていくことが

河内長野・大阪狭山地域

第3回エスチャンネル

6月22日(火)
10:00～12:00
オンライン企画

河内長野・大阪狭山地域理事
芝本 美紀

「香害」を通して
化学物質について考える



エスチャンネル資料として使った、環境省から出している化学物質についての市民ガイドブック

昨年度末から始めたエスチャンネルの第3回を開催しました。今回から、登録者が2人となりました。前々日までの緊急事態宣言を受けて、オンラインの開催となりました。

テーマを「香害」を通して化学物質について考え、まず、宿題としていた香り付き洗濯洗剤の成分表示について調べてきたことなどを話し合いました。香りの成分については表示に記載はなく、どのようなものからできているのかわかりませんでした。エスチャンネル参加の二人とも、せっけん利用者ですが、年頃の娘さんがニオイを気にする時期があり、「添加物の少なそうな柔軟剤を買ってき

て自分の洗濯に使ってくれ」と言われ何度か使ったが、使う際に香りが気になったことや、「ホームセンターやド

必要です。しかし、向こう三軒両隣という言葉も使われなくなったこの頃、ご近所に「ちょっとお願い」とはなかなか言えません。そこで誰でもが利用できる仕組みとしてエコロ制度があります。月々100円を出し合い、何かがあった時にケアを受けることができ、ケアをした加入者にはエコロからケア金をお渡しします。また、近隣者3名以上の登録でエコログループができます。グループをつくることでいざという時の対応にも早く対応できるので安心です。またグループ内での「見守り」にもつながります。

以上のことを踏まえて根気よく電

ラグストアーなど柔軟剤や洗剤が並ぶコーナーは、苦手だが、今はマスキング生活をしているので助かっている」といった普段、感じていることも話されていました。

また、環境省から排出されるデータを見て、家庭から排出される「化学物質」の半数ほどが、合成洗剤であることを確認し、自分達の住んでいる自治体は、川や池など水環境を守る取り組みは盛んだが、化学物質削減については何か取り組んでいるのか関心が広がり、さらには「行政への働きかけも必要だ」との意見もありました。

今後、地域ニュースで「現在の登録者と一緒にエスチャンネルに参加しませんか」と呼びかける予定です。身の回りで気になっていることや疑問に思うこと、関心のある事などをテーマにして、話し合ったり調べたり、また見学に行ったりもできます。みなさんの参加を心待ちにしています。

関西W.C.o連合会と共に
地域社会 vol.2

関西ワーカーズ・コレクティブ連合会
代表 中島 紀子さん

今回は「関西ワーカーズ・コレクティブ(以下、W.C.O.)連合会」の2021年度の活動基本方針のひとつ「W.C.O.で働く仲間を増やします。加入W.C.O.のメンバー募集、新しいW.C.O.設立支援などを共同でおこないます」について、具体的に計画していることをうかがいました。



この課題解決に向けた

今年度の活動内容としては、連合会主催のオンラインセミナーやZoomを使ったW.C.O.交流会の開催を予定しています。オンラインセミナーでは、テーマに興味のある人に開催の情報が伝わるよう広く広報し、出資・経営・労働が三位一体となった協同組合型のW.C.O.の働き方のアピールにもつながっていきます。また、W.C.O.交流会は、Zoomを使ったりレリー形式での開催を予定しており、それぞれのW.C.O.の紹介動画を見ながら、仕事の現場やメンバー、働き方を知ってもらう機会を作ります。まずは、関西圏のW.C.O.同士の交流から始めますが、今後、オンラインを使って、広く一般にもアピールしていく予定です。

関西W.C.O.連合会で2021年度の活動基本方針案を策定するにあたり、今の関西W.C.O.連合会の課題は何かと協議するなかで、いくつかある課題のひとつとして、個々のW.C.O.は、それぞれが事業活動を継続していくことに邁進しているが、高齢化が進み、新しいメンバーもなかなか入っていない状況にあること、またW.C.O.の数は増えておらず、このままではW.C.O.運動が、先細りしていくことが懸念されることが上がりました。

以上のような取り組みをすすめるなかでW.C.O.という働き方を多くの人に知ってもらい、共に働く仲間を増やし、新しいW.C.O.の設立にもつながっていききたいと思っています。

紹介します!!
うちの地域の
組合員さんです



店舗城山台D0で
組合員同士の交流
を楽しんでいます。

足立 隆子さん
[店舗地域]



足立さんおすすめの消費材「グランドの塩」

などの調味料類で、原材料が安心できること、おいしくて料理の味が引き立つと太鼓判を押してくれました。とりわけ「グランドの塩」がおすすめです。そのままで焼き物や煮物に使うと素材の味を引き出してくれるとのこと。また、国産大豆にがりで作られている豆伍心の豆腐が気に入りで、何もつけずに食べると大豆のおいしさを味わえるから食べてみてとおすすめしてくれました。

店舗「城山台D0」の運営をしている「ワーカーズ・コレクティブWORTH」のスタッフとの交流や、店舗で出会った組合員に声をかけて消費材の成り立ちを伝えたり、おすすめしながら組合員同士のコミュニケーションを楽しみにされています。

組合員歴30数年の足立さんは、枚方市から堺市に転居後、ご近所付き合いをきっかけに他生協に加入されましたが、自分の求めている生協ではないと感じて、エスコープ大阪の前身である泉北生協に加入されました。お気に入りには醤油、素精糖、みりん

聞き手 糸川 江里子
(店舗地域準備会担当常務理事)



第2回 理事会報告 <7月9日>

【5月度決算報告】

- 供給高 2億3,437万円(前年同月比89.6%)
- 組合員数 19,055名(前月比+41名)
- 一人当たりの出資金 85,904円

【6月の放射能検査結果】

6月は連合消費材750検体、関西消費材6検体の放射能検査を実施しました。生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

【決議事項】

- ①2021年度役員報酬額の決定

【協議事項】

- ①第55回エスコープ大阪通常総代会開催報告と運営について
- ②コロナ禍での産地訪問の進め方
- ③2021年度の組織体制
- ④2021年度温州みかんシーズン予約取り組み
- ⑤菜食ファーム「勝間南京」のB品設定と価格について
- ⑥グリーンシステム8月キャンペーン
- ⑦「地域ニュース」での首長メッセージ取得活動報告の提案
- ⑧種苗への遺伝子操作表示を求める署名の取り組み
- ⑨理事研修(ワーカーズ法法制化記念フォーラム)について
- ⑩オンラインでの子育てひろば開催について
- ⑪議案書読み合わせ実施報告
- ⑫W.Co.WITHによる店舗城山台Doからの消費材お届けの実験提案②
- ⑬河内長野・大阪狭山地域からの理事会への提案



エスコープ大阪 Rびん回収率 <6月実績>

2021年度Rびん85%以上の回収を達成しよう！
食べるカタログ・びん本体の♻マークが目印です。

	供給	回収	回収率
6月	11,747本	8,561本	73%
4～6月	37,780本	26,751本	71%

グリーンシステム回収率UPキャンペーンが始まります。お家にある空びんは必ず返しましょう！

編集後記

我が家の子どもは野菜が大好きです。小さい頃から旬菜セットの野菜を食べています。同じ野菜が続いて食卓にのぼると、「あ、春やな夏やな」と感じるそうです。「旬菜セット」で季節を体感できるステキな暮らしができています。トマト丸かじりは夏のお楽しみです。夏の体が求めている栄養を旬菜セットが教えてくれているように思います。生活の中で自然と身につく生活の知恵。「旬菜セット」が子どもたちを育ててくれています。(K)

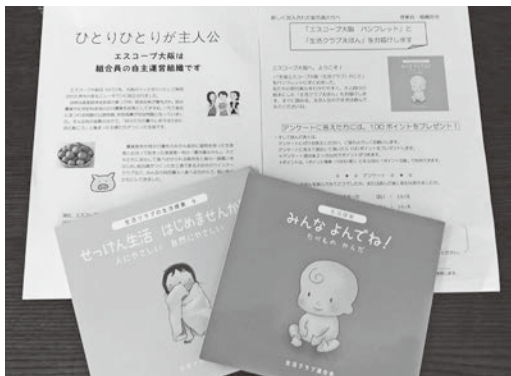
発行:生活協同組合エスコープ大阪 制作:W.Co パックプランニング

生活協同組合エスコープ大阪

〒590-0151 堺市南区小代727

TEL.072-293-4660 FAX.072-341-0022

<https://s-osaka.seikatsuclub.coop/>



新加入者への資料・アンケートと「生活クラブえほん」

加入直後の組合員に、エスコープ大阪の組織概要や組合員活動を理解し、運動・活動に参加してもらえるように、新加入者全員にエスコープ大阪の取り組みを説明した「組織パンフレット」と「生活クラブえほん」を配付しています。

2019年度からは「生活クラブえほん」の効果検証を目的としてアンケートの配布と回収をおこなってきました。2020年度はアンケートの回収の改善を図り、

新加入者との会話を活動や運動参加への入り口にしてい

消費材の受け取りの中心が班だった頃は、組合員同士の交流を班活動のなかでおこない新加入者とは生協の取り組みや運動について話題にする機会もありました。個配が主流となった現在では残念ながら組合員同士の交流が難しくなっています。地域委員会では、対面で新加入の組合員と出会い、交流できる企画を開催し、自分たちの活動や運動について伝えてきました。今年はコロナ禍により電話で直接話をして、情報を伝える活動をしています。

生協を知るきっかけとなる「生活クラブえほん」

現在、新加入者に配付しているえほんは、「せっけん生活はじめませんか」と「みんなよんでね！たべものからだ」の2種類です。

新加入者の関心を引き出す

今年度は組織担当常務理事がアンケート提出者に電話をかけてアン

ケートを話題に直接お話をしています。えほんを読んだ感想で、「生協の取り組みに関心を持った」の項目にほとんどの組合員がまるをつけていることから話を聞くと、「えほんを読んで食べ物への安心安全への関心が高まった」こと、

組織担当常務理事 糸川 江里子

おたよりネット



「りっぷる」の感想やご意見、その他投稿は下の「おたよりネット」欄で。配達時に提出、あるいは店舗の専用BOXまで。

220号1面「種を独占せず生物多様性を破壊しないことで持続可能な未来をめざす」を読んで
紙面モニター Oさん

科学技術の進歩はすばらしいと思います。だけど、それは誰もが納得できるように生かさなければなりません。皆が幸せになるように科学技術の進歩を生かしていく。そんな当たり前のこと、小学生でもわかることをどうして大人は忘れてしまうのだろう…。悲しくなります。

221号1面「環境問題の取り組みは自分と周りの人を大切に思う気持ちから始まります」を読んで
紙面モニター Kさん

グリーンシステムの「Rびんプロジェクト」の設立の経緯と副代表の西村さんの活動に改めて感動しました。大学や小中学校で環境問題の出前授業をされているとのこと。企業の利便性、利益追求が当たり前になっていますが、私たち消費者が、自然と環境にやさしい生活、住環境を守るため頭ではわかっているのですが、先頭に立って声を上げる勇氣、活動がとても大事なのだと改めて気づかされました。

キリトリ

Ripple おたよりネット

(ペンネームOK)

●地域名

●お名前

●組合員コード

●班名

消費材の苦情についてはこの用紙でなく、電話またはメモで。この欄への投稿・ご意見は紙面でご紹介することがあります。

理事会事務局行き
223号(2021.8.30)